

そこに「ものがたり」がありました

# 北摂のマチカド

第2回 秀辺留豆(高槻市) 取材・文/竹内梓

何年も前から佇み、不思議と人々が集まるあの店には  
どんなストーリーがあるのか。

今回は高槻市の喫茶店「秀辺留豆(シューベルト)」。  
個性豊かな店主と常連客たちが紡ぐ、素敵な物語をお届けします。



オープン当時からほとんど変わらないメニューは、コーヒーや紅茶などドリンクがメイン。こだわりのブレンドと自家焙煎の「浅煎りでふわっとシャンパンみたいな香り」のモカが人気。

天雲さんが言うと「そうですね。でも30年の親友みたいに思っていますよ」と吉田さん。静かに過ごしたい人には話しかけず、しゃべりたい人とは会話を楽しむなど、それぞれにほど良い距離感が訪れる人の心を癒すのだから。

カウンター周りには絵やオブジェといった吉田さんの独創的なアート作品も飾られ、意外な一面も垣間見せる。「きつかけとかはないんですけど、なんかひらめくんですよ。」

控えめでありながら、味わうほどにその魅力に気づかされる——シューベルトの音楽のような空間がここにある。

話したら車が好きたけだと思おう?」って聞いたら「そんな力入れてたらあきまへんよ」なんて、うまいこと言ってます。雑な喫茶店が増えている中でここだけは変わらないうんですよ。音楽や芸術について教えてもらえるのも勉強になりますね」と話す。

## 一杯がもたらすゆるやかな時間

JR高槻駅南口の階段を下りてすぐ。グリーンプラザ1号館の裏通りにその店は静かに佇む。古びた煉瓦、アンティーク調のドア、レトロモダンを思わせる看板は、昭和からある喫茶店と一目で分かる。ドアを開けると落ち着いた雰囲気店内に重厚感のあるクラシックが耳に心地よく響く。

駅前の再開発と同時にマスターの吉田進さんと妻の智子さんが2人で切り盛りしている。吉

田さんは音大のピアノ科卒業で、喫茶店を始める前に一度は指揮者を目指したこともある元音楽家。それを聞いて店名にも納得。名前の由来について聞くと、「モーツァルトなんかはよくあるでしょう? だからそれ以外にしようと思つて浮かんだのがシューベルト。大学生の時にシューベルトの課題が出たんです。地味やから最初は嫌やつたけど、情感込めて音色変えて弾いたらすごく良くて好きになりました」と吉田さんは京都弁混じりの柔らかい大阪弁で教えてくれた。30年来の常連

## 押しつけない

吉田さんらしい

アドバイス

お客さんと話すネタは芸術に限らず、介護など身近な話題も多い。「同世代で同じ課題を抱えている者同士だし、マスターは聞き上手だからついしゃべりすぎてしまふ。こんなことがあつたけどどう思う?」って聞いたら「そんな力入れてたらあきまへんよ」なんて、うまいこと言ってます。雑な喫茶店が増えている中でここだけは変わらないうんですよ。音楽や芸術について教えてもらえるのも勉強になりますね」と話す。

「車が好きで今までに16枚書き上げました。最初は水彩画からはじめて、油絵もチャレンジしています」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。

「車が好きで今までに16枚書き上げました。最初は水彩画からはじめて、油絵もチャレンジしています」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。

「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。



途中、方言の話で盛り上がり「京都なまりの大阪弁は『高槻弁』ていうんですよ。昔ね——」と由来などを説明する吉田さんに「へえ」と感心しながら聞き入る常連客のみなさん。



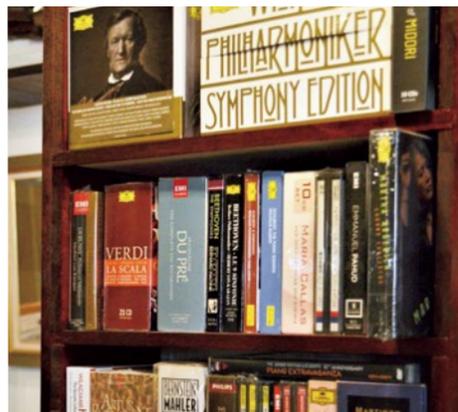
会社員時代は仕事で国内外を回り、各地の喫茶店も行ったという天雲さん。「目的によって喫茶店を使い分けますが、ここは憩いの場所。憩いの友達がマスターでありコーヒーです」。



定年後、美味しいコーヒーが飲める喫茶店を探していたとき、偶然見つけたという古家さん。「最初は一人で来ていたのが、今では妻と一緒に週に一度ランチの後必ずここに来ます。週に一度の楽しみです」。



趣味で始めた創作活動は絵画、樹脂や紙粘土のオブジェ、ランプシェード、バッグなど幅広く、最近では児童文学に初挑戦。絵画以外はほぼ独学というのにも驚かされる。



BGMは「シューベルトに限らずその日の気分で決めます。管弦楽やオペラなんかもかけますね」。客には音楽ファンも多く、コンサートのついでに立ち寄るプロ奏者や地元の音楽家にも親しまれている。

【取材協力】  
秀辺留豆(シューベルト)  
高槻市上田辺町1-17  
☎072-683-2039